

## 八ヶ岳山行報告

【山行日】2019年 10月 5日(土)～6日(日)

【集 合】岩舟支所P AM 4:00

【費 用】マイカー2台 : 15,500円

【メンバー】CL:鈴木、 SL大西、石川、菊池、  
関、五月女、津佐、鶴見、藤原、吉田

10月5日(土) 晴れ 美濃戸駐車場から北沢経由で赤岳鉱泉に行き、赤岩ノ頭から硫黄岳に登り硫黄岳山荘で昼食後、横岳を登って赤岳展望荘に宿泊する。

岩舟支所 P4:00＝美濃戸 P6:50/7:15～赤岳鉱泉

9:10/9:20～硫黄岳 11:20/11:30～硫黄岳山荘 11:50/12:30～横岳 13:20/13:30～赤岳展望荘 15:10

八ヶ岳の赤岳に登りたいとリクエストがあり、美濃戸から硫黄岳、赤岳、阿弥陀岳を周遊する計画を立てた。岩舟支所を4時に出て、東北道から圏央道、中央道と走り諏訪南ICで降り美濃戸に着く。



予約した美濃戸のやまのこ村駐車場に車を止め、トイレを済ませて出発の準備をする。ストレッチを済ませたら出発し、林道を北沢に沿って登って行く。美濃戸山荘の先で行者小屋への道を右に分け、さらに北沢沿いに少し色づいた木々の中林道を進む。やがて右手に祠がある苔むす樹林を抜け、しばらく進むと林道終点の広場に出る。北沢に架かる橋を渡り、北沢左岸に付けられた登山道を登って行く。沢沿いの登山道はとても爽やかで、皆さんも気持ちよさそうに歩いている。

赤岳鉱泉までは大小7箇所の橋を渡り、危険な箇所は立派な栈道を歩いて行く。4番目の橋を渡ると、横岳や大同心、小同心の展望が素晴らしい。平らな場所で休憩を取り、リンゴをいただき喉を潤す。ここからも何回か沢を渡り、最後のジョウゴ沢を丸木橋で渡るとシラビソの樹林帯の道に入る。樹林帯の道を抜けると赤岳鉱泉の赤い屋根が見え、テント場を通過して赤岳鉱泉に着く。

休憩を取ってトイレを済ませ、リンゴや行動食を食べてエネルギーを補給する。赤岳鉱泉前から東側の樹林帯に入り、ジョウゴ沢を渡って尾根に取りつき硫黄岳を目指す。丸太の階段とクサリ場を過ぎると、展望のない深い針葉樹林の中の急登が始まる。やがて樹林がダケカンバになると展望が開け、大ダルミから横岳の稜線が見えるようになる。ハイマツ帯の道に変わり、赤くザレタ道をジグザグに登り展望の良い稜線に出る。



すぐ左手が赤岩ノ頭で、ここで小休止し展望を楽しみながら呼吸を整える。オーレン小屋への道を左に分け、白い砂礫の尾根から右に回り込んで、岩塊を登ると大きなケルンが現れ硫黄岳山頂の



一角に出る。山頂標識の前で記念写真を撮り、爆裂火口の縁に立ち火口壁の光景に圧倒された。岩礫の稜線を進み、大ケルンに導かれて大ダルミへと下り、緩やかに登り返すと硫黄岳山荘に着く。山荘前のベンチとテーブルを借りてランチタイムとし、お湯を沸かしてカップ麺やスープとおにぎりをいただく。昼食が済んだら山荘でトイレを済ませ、いよいよ本日の核心部横岳のクサリ場へ向かう。山荘からは黒い岩礫の道をジグザグに登り、緩やかなピークをトラバースするとやせた岩稜に変わりクサリ場

に出る。クサリを頼りにバランスを保ち、ゆっくりと慎重に進む。さらにハシゴと鎖場を登り切ると横岳山頂に出る。山頂は西側がスパッと切れ落ち、その先にこれから進む稜線や赤岳が展望できる。小休止し記念写真を撮ったら山頂を後にする。ここからも日の出岳まではクサリ場やハシゴが連続し、

岩場が苦手な人には厳しいコースだ。日の出岳までくれば難場はもう少し、山頂で休憩しご褒美のプリンをいただく。皆さんも少し安心した様子で、「美味しい」と笑顔が戻って来た。日の出岳の東面を巻いてジグザグに下ると、ステップの刻まれた一枚岩の下りに出る。クサリを補助に慎重に下り、わずかにトラバースして稜線に出る。ここで緊張する横岳の悪場は終了する。続く小ピークは東面を巻き、ハシゴと鎖場を過ぎるとお地蔵様が祀られた地蔵尾根の分岐に着く。今宵の宿赤岳展望荘は



目の前で、ほんのわずか登ると展望荘に着いた。受付に並ぶが今日は超満員で、受付に30分以上掛かる。ようやく受付が済み、部屋に行くと大部屋の下段に10名割り当てられた。1区画5人がシュラフで寝るので、1枚の布団に2人よりはましたが狭かった。着替えを済ませ荷物を片付けたら



宴会だが、食堂はすでに満席だし間もなく夕食の準備で使えない。談話室も宿泊者が居て使用できないので、建屋の東側の風が当たらない場所で小宴会。6時45分から夕食になり、全員食堂に向かう。食事はビュッフェスタイルで、トレーに好きなものを取っていただく。品数は少ないが味は美味しいと、皆さん満足した様子。今日は超混雑して落ち着かないが、平日の空いているときは良さそうである。夕食後女性達は五右衛門風呂に入って温まり、「山の上でお風呂に入れて幸せ」と喜んでいた。



**10月6日(日) 晴れ 赤岳展望荘から赤岳山頂に登り、中岳のコルから阿弥陀岳をピストンで登り、行者小屋から南沢を経由して美濃戸へ下山し、「鹿の湯」で汗を流し昼食後岩舟支所へ**  
**展望荘 6:30～赤岳山頂 7:10/7:25～中岳のコル 8:40/8:50～阿弥陀岳 9:20/9:35～行者小屋 10:30/10:45～美濃戸 P12:30/12:45＝鹿の湯 13:05/14:30＝岩舟支所 P17:35**

朝4時30分に起きて外に出ると晴れていて、阿弥陀岳はガスの中だが東の清里側は晴れていた。出発の準備をしてから食堂に行き、3回目の5時30分から朝食をいただく。朝食もビュッフェスタイルで、トレーに好きなものを取り分けて食べる。皆さんも自分が好きなものだけ食べられ、「美味しかった」と満足そうだった。ところがその後のトイレが大変だった。トイレの数が少ないので、長蛇の列で入るまでに30分掛かる。ようやく済ませて外に出ると、皆さんすでにスタンバイしていた。場所が狭いので、ストレッチは各自行い出発する。すでに大勢の登山者が赤岳目指して登っており、我々も後を追って赤岳を目指す。いきなり岩稜の急登が始まり、滑りやすい登山道はクサリを頼りに登って行く。2番手、3番手の人が苦戦してるので前に行き、登り方を教えながら高度を上げて行く。岩稜を抜けると傾斜が緩くなり、ひと登りで赤岳頂上小屋が立つ頂



稜に出る。ここからほんの少し登ると南峰で、三角点と祠が置かれた赤岳山頂に着く。八ヶ岳連峰の最高峰からの展望は素晴らしく、富士山や南アルプス、権現岳や阿弥陀岳等の大パノラマを満喫する。記念写真を撮ったら安全な場所に移動し、それぞれが写真を撮ったり展望を楽しんでいた。展望を満喫したら、阿弥陀岳に向かう。山頂から南にキレット方面へわずかに下り、直ぐに右手に折れて岩層がゴロゴロしたルンゼ

状の岩稜を下る。本日一番の難所で、クサリを頼りに三点支持で慎重に下る。登って来る登山者が多いので、すれ違いにも気を遣いながら降りて行く。ようやく悪場を過ぎて後ろを振り返り、「あんな凄い所を降りて来たんだ」と驚いていた。山腹を巻くように下ると文三郎道分岐に出て、文三郎道を右に分けずれた道をジグザグに下るとコルに出る。さらにジグザグに中岳に登り返し、ハイマツ尾根を下ると広く平らな中岳のコルに出る。リンゴを食べて小休止し、ザックを置いて阿弥陀岳をピストンする。



阿弥陀岳の登りは浮石が多い岩稜の急登で、途中にハシゴも有手強い登りだ。山頂に着くと石祠が祀られており、重量感あふれる赤岳や権現岳の眺めが素晴らしい。リンゴやレモンの蜂蜜漬けを



いただきながら、ゆっくり展望を楽しみ下山する。下山は我輩がリードし、崩れた悪場を慎重に下り中岳のコルに着く。ザックを背負い行者小屋に向かって降りて行く。阿弥陀岳の東側をトラバース気味に下り、途中からダケカンバの中をジグザグに下って行く。やがてシラビソの樹林帯になり、中岳沢を渡ると文三郎道と合わさり間もなく行者小屋に着く。小屋のトイレを借りて大休止し、ナシやクッキー、煎餅を食べてこれからの下りに備える。

行者小屋からは南沢を下り、美濃戸のやまのこ村に向かう。

最初は広い緩やかな道を下って行き、途中からシラビソの樹林帯の中苔むした登山道を下る。

さらに下ると沢沿いの道になり、何度も渡渉を繰り返しながら下って行く。最後に砂防ダムの堰堤を越えると往路の林道に出て、美濃戸山荘を過ぎるとゲートを抜け、間もなくやまのこ村に着く。イエ〜イとハイタッチを交わし、皆さんの顔を見ると達成感に満ちた良い顔をしていた。靴を履き替えて荷物を車に積み、トイレを済ませたら温泉に向かう。南八の帰りは定番の「鹿の湯」に浸かり、入浴後に昼食をいただく。入浴とランチのセット券を購入し、温泉にゆっくり浸かった後レストランでランチをいただく。



それぞれ好きなメニューをオーダーし、ランチが済んだら帰路につく。帰りは渋滞を避け、清里経由で国道141号に出て「ビックリ市場」でお買い物。野菜やくだもの等のお土産にゲットし、八千穂高原ICから中部横断自動車道に入る。上信越道から関越道、北関東道と進み、渋滞も無く順調に走り予定よりも早く岩舟支所に帰着した。